

植木鉢のデザイン開発

稲垣三喜男 加藤 勝正 伊藤 政巳

Design of Flowerpot

by

Mikio INAGAKI, Katsumasa KATO and Masami ITO

三河地区の陶磁器製植木鉢業界の活性化を図るため市場動向調査を実施し、その結果に基づいて土味、手作り風及び自然志向の三つをコンセプトにし、加飾法に重点を置いて高級化・高付加価値化を目指したデザインを検討して試作品を作製した。試作品の形状は標準タイプ、ストレートタイプ及びマグカップタイプの3種類で、それぞれをコンセプトに沿って組み合わせた。素地土は三河配合粘土と三河鉢用白土の2種類、加飾材料は白色粘土をレリーフと化粧土に使用し、成形は石膏型にひも状粘土を型込めする手法を用いた。

その結果、植木鉢の表面に自然なしわを形成させた素地に、レリーフや化粧土で加飾したのち焼成して、手作り風を強調したものや、化粧土をマット調にして焼き物らしくないデザインの植木鉢が開発できた。

1. まえがき

三河地区の陶磁器製植木鉢業界は、円高の定着による良質、安価な海外製品の輸入、プラスチックや紙製などの植木鉢との競合もあり、これまでに経験したことのない厳しい状況に直面している。一方、業界では積極的に製品開発に努めてはいるが、新しい素材および加飾技法によるオリジナリティのある製品開発を求めている。

そのため、県内の植木鉢販売店で市場動向調査を行い、消費者ニーズを把握し、開発コンセプトの設定、デザイン検討等を行い試作品を作製した。

2. 市場動向調査

消費者ニーズにマッチした植木鉢のデザイン開発を進めるため、消費者との接点である販売店における需要動向を陶磁器製植木鉢を中心に面接調査を実施した。

2.1 調査地域と業態

都市及びその周辺における地域、並びに販売店の業態による消費者ニーズの差異を把握するため10店舗について調査した。地域別では名古屋地区3店舗、三河地区7店舗で、業態別では生花店3店舗、園芸・種苗店5店舗、量販店1店舗、その他として素焼きの焼き物専門家を1店舗調査した。

2.2 売れ筋価格と材質

売れ筋価格は生花店及び素焼き専門店の方が、量販店や園芸・種苗店よりやや高額となっている。しかし、いずれも価格には厳しく植木鉢の材質に関係なく低い価格を要求している。

また、材質による販売量は量販店では消費者の軽量、安価、手軽さのニーズに対応して、プラスチック製植木鉢が大半を占め、陶磁器製植木鉢は年々減少傾向にある。

2.3 購買者層と仕入れ

購買者層は、既婚の女性が主流で若年、熟年を問わず幅広く好みの商品を買求めている。また、販売店が商品を仕入れる際は、デザインと価格を重要視しており、産地ブランドや機能性についての要求はほとんどなかった。他店との差別化を重視した品揃えをする販売店は、特に手作り商品を仕入れの要にあげている。

2.4 イメージと今後の需要・デザイン

陶磁器製植木鉢製品がプラスチックや紙製品などと比較してどのようなイメージを持っているかを調査した結果、長所は素朴、植物にやさしい、高級感をあげ、短所は重い、割れる、価格が高いことであった。需要については、量販店以外の大半の店舗は需要は伸びると予想している。しかし、最も多く販売している量販店では年々売り場面積が減少している。それに加え、最近の円高の影響により東南アジアだけでなくヨーロッパからも陶磁

器製の植木鉢が多く輸入されており、国内産は今後ますます厳しい市場競争が予想される。

また、デザインについては購買者層の大半は女性であり、女性を意識したハイセンスで可愛いデザイン、低価格を期待している。また、陶磁器製の植木鉢は焼き物の良さを強調すべきで土味を生かし、手作り風でシンプルなデザインをあげ、具体的には都会では花を置けるスペースに限りがあるため、壁やフェンスなどを利用し立体的に楽しめる製品をあげている。

3. 開発コンセプト

市場動向調査から、植木鉢の購買者層の大半は女性が占めており、開発のポイントは女性に好かれるデザインをいかに開発するかである。その女性は植木鉢に対し、価格が安く、ハイセンスで可愛い植木鉢で焼き物の良さを生かし、手作り風でシンプルなデザインを望んでいる。

そのため開発コンセプトは、三河の陶磁器製植木鉢の特徴である「土味」、機械造りにはない素朴な味わいを出す「手作り風」、最近のトレンドである「自然志向」の三つとして検討した。

4. デザイン及び試作

設定した「土味」、「手作り風」、「自然志向」の三つの開発コンセプトに沿いデザイン検討を行い試作品を作製した。

4.1 素地土

素地土は「土味」のコンセプトに沿い、現在、三河地区植木鉢業界で使用されている三河配合粘土と三河鉢用白土の2種類とした。また、レリーフには主な構成鉱物が α -石英及びカオリナイト鉱物などで、鉄分が少なく可塑性のある白色粘土を使用した。

4.2 成形と形状

成形法は、コンセプトの「手作り風」を生かすため、ひも作りとし同形状のものを複数試作できるよう石膏型にひも状粘土を型込めする手法とした。

表1 試作品の形状 (mm)

種 類	寸 法
標 準 タ イ プ	$\phi 110 \times H110$
ス ト レ ー ト タ イ プ	$\phi 120 \times H150$
マ グ カ ッ プ タ イ プ	$\phi 120 \times H180$

また、試作する植木鉢の形状は、表1に示すように一般的な標準タイプ、直線を強調したストレートタイプ、個性的なマグカップタイプの3種類とした。

4.3 加飾とレリーフ

加飾は付加価値が高く、手作り風の味を出すためレリーフを張付ける加飾、表2に示す化粧土を施す加飾およびそれぞれを組み合わせた加飾を試みた。レリーフは「自然志向」を表現するため、自然を感じさせ、かつ、レリーフに造形し易いことをポイントに検討し、貝殻、植物の葉・花、蝶などをモチーフにデザインした。

表2 化粧土の配合 (%)

種 類	顔料等	白色粘土	フリット
白 色 粘 土	—	100	—
二酸化マンガン	100	—	—
酸 化 ク ロ ム	30	60	10
コバルトブルー	30	60	10
べ ん が ら	30	60	10
濃 ピ ン ク	30	60	10

4.4 試 作

素地土の種類・鉢の形状・レリーフ・化粧土の組み合わせによる写真1～9の植木鉢を試作した。

「標準タイプ：写真1～4」

写真1 三河配合粘土の赤焼きの素地に白色粘土のレリーフ（植物の葉や実など）を張付けた。

素 地 土：三河配合粘土

レリーフ：白色粘土

焼 成：電気炉900℃

写真2 上辺部に化粧土を帯状に刷毛塗りし、その帯の上に白色粘土に顔料を添加して型押し成形した菊花紋のレリーフを張付けた。

素 地 土：三河鉢用白土

レリーフ：白色粘土

化 粧 土：酸化クロム、コバルトブルー、べんがら

焼 成：電気炉1100℃

写真3 胴部分に化粧土を刷毛塗りし、その上に白色粘土の白を強調した樹のレリーフを張付けた。

素 地 土：三河鉢用白土

レリーフ：白色粘土

化 粧 土：酸化クロム、コバルトブルー、濃ピンク

焼 成：電気炉1100℃

写真4 底部分に足を付けてタンブラーのイメージとし、上部に化粧土でストライプを付けた。



写真1



写真2



写真3

標準タイプ (写真1~4)



写真4



写真5



写真6

ストレートタイプ (写真5~6)



写真7



写真8



写真9

マグカップタイプ (写真7~9)

素地土：三河鉢用白土

化粧土：酸化クロム、コバルトブルー、濃ピンク

焼成：電気炉1100℃

「ストレートタイプ：写真5～6」

写真5 三河配合粘土の赤焼きの素地に白色粘土のレリーフ（太陽、ひまわり）を張付けた。

素地土：三河配合粘土

レリーフ：白色粘土

焼成：電気炉900℃

写真6 上部にアクセントとして化粧土を帯状に刷毛塗りし、白色粘土で花柄風の水玉模様をスタンピングした。

素地土：三河鉢用白土

化粧土：酸化クロム、コバルトブルー、二酸化マンガ

焼成：電気炉1100℃

「マグカップタイプ：写真7～9」

写真7 ビールジョッキをイメージしたマグカップスタイルで、胴部分に化粧土および白色粘土のレリーフ（貝殻）を張付けた。

素地土：三河配合粘土

レリーフ：白色粘土

化粧土：酸化クロム、コバルトブルー、べんがら

焼成：電気炉900℃

写真8 胴部分に化粧土の色で変化を持たせ、白色粘土のレリーフ（縄目、植物の葉）を張付けた。

素地土：三河鉢用白土

レリーフ：白色粘土

化粧土：酸化クロム、コバルトブルー

焼成：電気炉900℃

写真9 三河配合粘土の赤焼きの味を生かし、吊り下げ部に羽根を広げた蝶のレリーフを張付けた。

素地土：三河配合粘土

レリーフ：三河配合粘土

化粧土：白色粘土

焼成：電気炉900℃

5. まとめ

「土味」、「手作り風」、「自然志向」の三つのコンセプトは、市場動向調査の結果から得られた消費者ニーズであるため、これらを踏襲しつつ、加飾法により三河産陶磁器製植木鉢の高級化、高付加価値化のためデザイン開発を行った。

- (1) 三河配合粘土の赤焼きの土味を活かすために、白色粘土をレリーフに使用した。
- (2) 成形法にひも作りを採用して鉢の表面にしわを形成し、手作り風の雰囲気表現した。
- (3) レリーフに植物や太陽などを使用して自然志向を表現した。
- (4) 高級化、高付加価値化のため、表面に化粧土やレリーフで加飾した。